

## 国内研修レポート

8月23日から27日までの5日間、私は現代福祉学部の国内研修制度に参加し、島根県隠岐郡にある島前という島で過ごしました。そこは東京や横浜とは全く違い、自然豊かな場所でした。島の人やコンビニを知らない中学生、障がい者施設の方々と関わることで様々なことを感じる事ができる夏になりました。その中でも印象に残っている出来事は2つあります。

1つ目は、中学校での「生き方学習」に交流学生として参加したことです。交流授業では大学生1人につき中学生2人がペアになって主に中学生からの質問に答えるという形でした。私たちが行った島前には高校が1つしかなく大学は1つもないので普段大学生くらいの年代の人と関わる機会がないそうです。オープンキャンパスに行くにも本土までフェリーで3時間かけて行っていると聞いて驚きました。そんな中学生からの質問は、将来の夢はなんですか？学校楽しいですか？学費はいくらかわかりますか？など私が大学とは何かまだ漠然としていてわからなかった頃に考えていたのと同じでした。だんだんと打ち解けてきて私のペアの子たちは自分の夢やクラスでの勢力関係についても教えてくれました。

まず夢についてですが、前に書いたように島前には高校は1つしかないのも中学校を卒業したら島にある高校に行くか本土にある高校、専門学校に行くか、働くという選択をしなければなりません。私なら安定なことを考えてそのまま島の高校に行けるようにある程度勉強し、大学や自分の夢のために島を出て親元を離れるのは先延ばしにしてしまうと思います。しかし、島の子達は早くここを出て自立したいという子がたくさんいました。理由を聞くと、自分の将来を思って島を出たいという子もいましたが、不便だからコンビニがあるところで暮らしたいなど今の生活に少し不満がある生徒もいて本土の生活に憧れを持っているのかと感じました。一方、夢のために島を出たいと考えている生徒は漠然としながらもすごく現実味を帯びていると感じました。私に関わった中学生の中で保育関係の職に就きたいと考えている子がいました。その子は高校を出て本土の専門学校に行って資格を取りたいと言っていてとても具体的に自分の将来について考えられていると思い驚きました。私は高校受験用の学習塾でアルバイトをしているので割りと都会に近い環境で過ごしている中学生ともかかわる機会があるのですが、島で過ごしている中学生とは全く異なると思いました。島で暮らしている中学生は自然いっぱいのところや育っているからかとてもものびのびしていて個性が強い子が多かったです。それに比べて私がアルバイトで関わる中学生たちは小学生から塾に通いとりあえずみんなが大学まで行っているからそれまで勉強という感じで、今まで普通だと思っていたので何も感じませんでした。もっと中学生らし

さを出してもいいのではないかと思いました。

中学生が話してくれた中でもう1つ印象的だと思ったのはクラスの中での力関係です。交流をした中学校は1学年1クラスでクラス替えがありません。子どもが少なく、狭いコミュニティの中で過ごしているので幼稚園からずっとクラス替えなしの状態だそうです。したがって小さい頃から威張る性格の子は中学生の今も同級生の間でのポジションは変わらないし、言い負けてしまう子、断り切れない子など小さい頃からこうだったからという関係のままだそうです。ハンディキャップのある生徒もいてその生徒自身は明るく誰にでも接するタイプなのですが、思春期真ただ中周りの同級生からすると関わりづらいのか微妙な雰囲気になってしまう事も多々見受けられました。また、成長によって性格が変わったり幼稚園小学校の頃とはギャップが生じたりしている子は少し生きづらいのかなと感じました。学校ではネコをかぶっていて家で発散する生徒もいると聞いて狭いコミュニティの中でもどうにか個性を出してストレスなく過ごせる方法はないかと思いました。

島前に行った中で印象に残っていることの2つ目は障がい者施設にインタビューに行ったことです。島前の島の1つ、西ノ島にある「ございな」という障がい者の方の仕事のサポートをする施設で交流をしました。この施設は障がい者就労支援B型という制度で雇用契約は結ばないので仕事を強制することなく1人ひとりのペースに合わせて仕事ができるのが特徴で、最低賃金は払われませんが工賃が払われます。仕事内容は草むしりや掃除が主で、職員の方が引率してフォローしながら仕事を行なっているそうです。はじめは島の公共トイレなどの掃除から始まり、今は丁寧な仕事ぶりが認められ老人ホームの掃除など依頼されて行なう仕事も多くあるそうです。西ノ島には障がい者施設が1つしかなく養護学校も少し離れた島か本土にしかないので利用する年齢層は高めでした。また施設長の小松さんに島だからこそいいことや不便な点を教えていただきました。まず島だから良かったと思うことは、コミュニティが狭いので施設の近くに住んでいる人は暖かく理解のある人ばかりだそうです。近くの保育園にも利用者さんが遊びに行ける関係でみんな優しく温かい人ばかりだと思いました。また近くにある保健所の職員の方や島前病院の先生はどんなことでも受け入れてくれるようで、施設だけで孤立せず頼れる人がたくさんいるとおっしゃっていました。島だからこそ連携できることが多いのだと感じました。次にデメリットについてですが最近精神科の先生がやめてしまったそうです。今は月に2回違う先生に来てもらっているようですが、週1、2回同じ先生が診察にきていた以前よりも利用者さんの不安は大きいと思いました。また施設にも限界があって、ある程度就労が行なえる方のみ受け付けていてもっと重い障がいを持っている人は本土に行くしかないそうです。私たちくらいの歳の利用者さんはおらず、高校生の頃に養護施設へ行く方たちはその養護施設のあるほうで就職先も決まる方が多いので島に戻ってくることは少ないそうです。私が交流してみて感じたことは、皆さんのびのびとはつらつとしていてハンディキャ

ップがあるとは思えない明るさだと思いました。初めの方から明るく接して頂きあまり施設を訪れたことのない私も皆さんと接しやすい雰囲気でした。内向的な人は少なく施設長とお話ししている時も積極的に話しかけてくれました。ございなでは以前バザーのようなお祭りを開催していたそうでまたやりたいと話していて仕事をする場だけれど日常の楽しい時間も一緒に過ごしていることもわかりました。俳句をプレゼントしてくれる方や昔話をしてくれる方など交流の時間はあっという間に感じました。今回ございなに行くまで私は障がい者施設に行ったことがなくどんな所なのか想像が付きませんでした。しかし交流してみると明るくて接しやすく歓迎してくれたのでイメージがガラッと変わりました。接しづらいイメージはなくなってその方たちを取り巻く環境についても興味が湧きました。

島前への国内研修を終えて様々なことを吸収できたと感じました。コンビニや便利なものがある町で暮らしている私たちにとって不便だな、洋服を買うときはどうしているのだろうと思うこともありましたが、それ以上に自然の豊かさや人の温かさをたくさん感じることができました。狭いコミュニティの中で個性を出しながら生きるのは大変だと思いましたが社会に出で役立つことも多くあると思うのでいい環境だと感じました。